

MILSUMA

[ミリスマ] No. 5
MAY 2015
Contents

表紙モデル/坂井 香
撮影/織本知之
構成/小川太市(WPP)、松浦 豪(WPP)
取材協力/TASK FORCE WARLOCK
ヘアメイク/成田麻美
衣装協力/中田商店
撮影協力/SEALS

坂井 香×TASK FORCE WARLOCK
コンバットカメラマンの視線を追う 写真/織本知之 009

COME SEE US! SHOOT or DIE

COMCAMコンバットカメラマン 020

コンバットカメラマン仕様 MA-1 029

HEAT UP! 4

MILSIM WEST 48hours Survival Games 文と写真/Tomo Hasegawa 036

関西最大級の野戦型フィールドでサバゲしよう! 大阪グリーンキャニオン 44

国内最大級のロングペンション マウンテンドーム MD砦 46

ミリスマコラム 文と写真/織本知之 65

TF WARLOCK+ THE GRAND GRIMOIRE

本誌暗中飛躍のハードコア特殊装備マニアグループによるスタイリングテキストガイド 74

欲しいグッズが手に入るチャンス! 読者プレゼント 91

COMBAT GUNS ~僕の撃ってきた銃~ 文と写真/Tomo Hasegawa 92

「SWAT」が提案するアメリカンポリスのLE装備 96

TITLE: Mil Suma No.5
World Mook Series No.1073
Edited by KESAHARU IMAI
Publication Date: May 30, 2015

Copyright © 2015 by World Photo Press

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or used in any form or by any means—graphic, electronic, or mechanical, including photocopying or information storage and retrieval systems—without the written permission from the copyright holder.

ISBN: 978-4-8465-3073-0 C9456 ¥907E
Printed in Japan

Published by World Photo Press
3-39-2 Nakano
Nakano-ku
Tokyo 164-8551
Japan
Phone: +81(Japan)-3-5385-8111; Fax: +81(Japan)-3-5385-5614
Email: monomag@wpp.co.jp
URL: http://www.monomagazine.com

This book may be purchased from the publisher.

仲間と、家族と楽しい! 「真・長老の杜」で遊べ! 98

第2回ミリスマ杯レポートinタクティクスフィールド 100

ゲームセンター以上、射撃場未満の遊べるシューティング
「MET II」を体験せよ! 102

“Overload of the MILITARY PACK”
EAGLE industries AⅢPACK 103

2015春夏コレクション フィールドタイプ別 おすすめエアガンカタログ 108

初心者でも分かる海外製エアガン入門! 116

所ジョージ/WESTERN ARMSコラボレーション
《世田谷ベース制式装備品》シリーズ
1056 COMBAT COMMANDER & 1056 MINI GOVERNMENT 118

上矢ゆいの何でもミリ日記。文と写真/上矢ゆい 124

第5回 ミリタリーパッチの研究「海賊旗部隊とマザー(タヌキ)トロフィー」 126

東京・鶯谷「笠俊商店」のミリモノ・ヴィンテージ50選 128

第17回HOOHA SHOW in台北 イベントレポート 134

BHR2特別杯 バイオ ハザードdeサバゲー! 136

東京・中野「レイジーキャット」のミリ・モノ・ナウ! 138

サバゲーのルール、装備の買い方を指南する ビギナーズガイド 139

THE GUNS~現場で選ばれる銃~ 文と写真/Tomo Hasegawa 152

ミリバー探訪記「MT基地」in東京・高円寺 文/高山宗東 158

イギリス・トラックレースの世界 巨体が爆走する異次元のレース 162

ハイパー道楽主催 メディア懇親サバゲin東京サバゲパーク 164

『ミリスマ』読者限定“一点モノ”ショッピングモール MILカスタム総本舗 165

シネマ 敗残兵! 文/狩野健一郎 172

第5回 英国ミリタリーウエアの研究 文/飯野高広 174

モノショップでミリモノを買おう! 178

好き好き大好きみんなの6094(ろくまるきゅーよん♡)

米軍現用最新装備図鑑 解説/松原 隆 188

KAMIKAZEに吹かれて 196

イザ! という時の身分証明 着用する個人情報・ドッグタグ 構成と文/菊月俊之 198

ミリスマ インフォメーション 202

全国サバゲーフィールド&シューティングレンジ最新ガイド 203



09:17 Camera Girl

「聞いたこともない部隊が小さな訓練をやるらしい」。上司からそう聞かされた彼女は、駆け出しの自分にとって丁度いい初陣になるのではと考え志願した。キャサリン・ルロイという、21歳の若さでベトナム戦争を駆け抜けたフランス人の女性戦場カメラマンがいたことを知ってから、やりたいことを見付けて今こうしてこの場に来ていることを実感しつつある。

ところがどうだろう、その小さな訓練は想像以上に小さく見えた。数時間なら報道を受け付けてくれるということだったが、自分以外誰も取材に来ている様子はない。屈強そうな男たちが数人だけ特に緊張感もなく雑談に花を咲かせていたが、声をかけてみると意外に感じのいい隊員たちだったので、初陣の緊張すら失ってしまっていた。

上司からは隊員の徽章を見ればある程度その所属が分かるか聞かされていたが、確かによく分からない。また見れば星条旗だけでなく、ユニオンジャックや恐らくポーランドの国旗のワッペンが貼られているように見えた。

「所属はどちらなんですか？」と聞くと、彼らは満面の笑みで「あめりかぐん」と楽しそうに答えてくれた。彼女は多少訝しんだ上で各徽章について質問したが、返ってきたのは「かっこいい？」という質問だけだった。

“An unknown unit is conducting a small exercise” that was what she heard from her senior. As a budding photographer, she thought that it would be an excellent chance to start off her carrier. A famous women combat photographer, Catherine Leroy, was her heroin, and she was so proud that she was here now pursuing her own interests in her carrier that had just started.

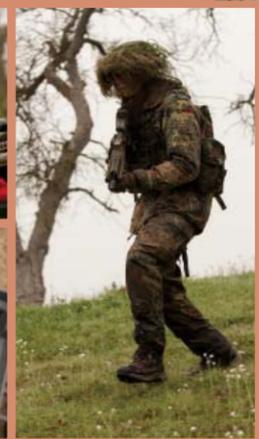
However, waiting her there was a very small unit, smaller than what she anticipated. She heard that they were available to the press for a few hours session, but nobody else in the press was there except for herself. A number of tough-looking men, just talking and laughing with each other. She spoke to them, and they were so friendly that she nearly started to think that this was a mere outdoor party.

Her senior told her that patches would tell her the units they were attached to, but that did not seem a help to her. She recognized a union jack and a polish national flag. When she asked “Where do you belong?”, they just answered with a big smile, “American Forces”. She asked about their patches, but they just said, “Cool, aren’t they?”



限界を超える! ゴールは48時間後!!

それぞれのベースは、丘や谷を挟んで1マイル(約1.6km)以上離れている。すべての作戦は各部隊の指揮官に任されている。各連隊にはふたりほどの「ブランクガンナー(空砲銃を撃つ兵士)」がいる。ブランクガンは、実銃にブランクアダプターを装着しただけ。主催者が認定した者だけがガンナーとして採用されている。下は5.56mm口径のブランク弾。



戦闘中にも次々とBB弾や水といった補給用サプライがトラックやハンビーで到着する。この供給が上手くいかない弾薬不足で全滅といった事態も起きる。また、飲料水は自分の分は携行するのが当然だし、食料はすべて自給自足がルールだ。



ベースに到着後はすぐに作戦に投入される。写真は奇襲のための高地確保に向かうNATO軍。最低でもこれだけの装備は必要だ。

ベースの周りには、かなり本格的な塹壕が掘られている。ちなみに参加登録をした時点で、65ページに渡るルールブックが送られてくる。これには、使用できる装備から、各ライフル、マシンガン等の銃口発射速度が詳しく網羅されている。



起伏のある会場の面積は700エーカー以上、東京ドームが200個以上は入るといふ広大なスペースを使う。分隊ごとにミリタリー経験のある分隊長がいて、それぞれのミッションを説明してくれる。NATO軍は基本的にマルチカムユニフォーム。兵員輸送には1945年製GMC CCKW 6x6トラックなど実物の車両が使われる。駐車場まで徒歩でゆうに11時間はかかるベースまで有無を言わずに連れて行かれてしまう。



「MilSimって知ってるか?」いつもエアソフトガンに関する情報をくれる友人から電話をもらった。MilSim=ミリシムというのは「ミリタリー・シミュレーション」の略で、訳すならばエアソフトガンを使った「模擬ミリタリーオペレーション戦」になろうか。敵対

する2つの軍事勢力が、部隊規模のミッション(使命)を帯びて作戦行動をするという、かなり大規模で本格的なイベントだ。現役、もしくは退役したばかりのミリタリー経験者が参加、もしくは関与するケースが多く、作戦の立案から各部隊の指揮に到るまで、それぞ

れの経験をフルに生かして牽引してってくれるので、よりリアルな経験が出来る。「48時間ぶっ続けという凄いのが、北カルフォルニアで開催されることになった。もし取材したいなら、主催者に話しておくよ」持つべきものは友である。

「参加者は部隊の進攻に伴って、全員が野宿することを義務付けられている。車に戻って寝ることも許されないし、真夜中の敵襲も予定されているそうだ」ますます面白くなってきた。たった3日間とはいえ、気分は従軍カメラマンということになる。早速参加を申し込んだ。

シエラネバダ山脈の山裾の会場には、開始日の昼過ぎともなると、続々と参加者が集まってくる。彼らは申し込みの時点で、シナリオに沿ってNATO軍とロシア軍に振り分けられており、戦闘が始まるまで顔を合わせることはない。

主催者のひとり、ジョッシュ・ウォーレン氏に、話を聞いてみた。「我々“MilSim West”は、2012年以来、年に4回ほど48時間イベントを開催している。300人前後が、50人ほどのプラトーン(部隊)に分かれ、3対3で48時間作戦行動をする。このシナリオが一番楽

しめるんじゃないかな」このミリシムイベントでは、通常のサバイバルゲームとは大きく異なるルールや仕掛けがたくさんある。以下にリストしてみよう。**1:**ひとつのミッションに携行できるBB弾は、出発時に支給される500発のみ。ただしマシンガンナー

は、2000発支給される。あとは、野営地に兵站部隊が運んでくるかベースに戻るまで、供給されない。**2:**すべての行動、展開、発砲は、部隊長、分隊長の指示に従う。**3:**各部隊に2名以上4名以下の、実銃のブランク(空砲)発射をする射手がいる。この発射音たるや、





TF WARLOCK + + + + THE GRAND GRIMOIRE

タスクフォース・ウォーロック・グラン・グリモワール

本誌暗中飛躍のハードコア特殊装備マニアグループ、
“タスクフォース・ウォーロック”による
大奥義書(スタイリングテキストガイド)。

TEXT : fujiwara
MODEL : TF WARLOCK
PHOTO : Tomoyuki Orimoto

2015 春夏コレクション

おすすめエアガンカタログ

インドアフィールド

フィールドタイプ別

最近全国各地に次々とOPENしているインドアフィールド。季節や天候に左右されずにゲームを楽しむ、風でBB弾が流されることもないのは大きなメリットだ。また、照明や内装で独特な世界観を演出し、利用者を飽きさせないように面白い工夫をしているフィールドも多い。さらに、駅の近くとか大型商業施設に隣接している例もあるなど、アクセス条件に恵まれている場合も多く、その気軽さ、利用のしやすさから昨今のサバイバルゲーム人気拡大に大きく寄与していると考えられている。一方で、インドアならではの特徴もある。限られた空間でゲームを盛り上げるため、壁や通路が迷路のように入り組んだ複雑なレイアウトや、時には渡り廊下や吹き抜けを設けた立体的な配置がなされている場合が多いので、長距離の命中精度よりはむしろ、全長が短いことや軽量であるなど、機動性に優れたエアソフトガンが有利となる。出会い頭の撃ち合いも多くなるので速射性に優れたモデルが好まれるし、薄暗かったり、時には暗黒だったりといった、いわゆるローライト(=低光量)条件に対応するための各種ライトや照準器の取り付けが可能なモデルが好ましい……という意見もある。



Hi-CAPA E / 電動ハンドガン

●ゲーマーの機動性を最大限に活かせるハンドガンの小型なシルエットの中に先進の電動メカニズムをギュッと凝縮。それでいて長モノのエアガンに負けない飛距離・命中精度、そしてフルオートの弾幕!と、戦闘力もほぼ互角。さらにサブレッサー装着による隠密性の向上、ライト等による暗所対策も可能……とくれば、電動ハンドガンこそがインドアフィールドの主役、という考えにも頷ける。ガスブローバックとしても最高の人気を誇るハイキャバの電動ガン化は、多くのゲーマーが待望していた。

全長: 218mm
重量: 807g(※空のマガジンとバッテリー込)
動力源: 7.2Vニッケル水素マイクロ500バッテリー
装弾数: 30発
価格: 1万7064円



MP7A1 / 電動CMG

●4.6mmの特殊弾薬を使用するPDW(=パーソナルディフェンスウェポン)の決定版がMP7。東京マルイが新規に超小型メカBOXを新開発してスタートさせた電動コンパクトサブマシンガンシリーズ第1弾。

全長: 380/590mm
重量: 1,390g(※バッテリー含まず)
動力源: 7.2VマイクロバッテリーEx
装弾数: 50発
価格: 3万1104円



M4CRW / 電動ガン

●電動M4シリーズでは最短・最軽量のモデル。多弾数マガジンが最初から付いてくるのでサバゲ入門用としても最適なモデルのひとつ。レールハンドガードでさまざまなオプションパーツにも対応。

全長: 675mm 重量: 2,400g(※バッテリー含まず)
動力源: ニッケル水素ミニSバッテリー 装弾数: 300発
価格: 4万1904円



H&K MP5K HC / 電動ガン

●機動性に優れた軽量小型ボディでかれこれ20年近くもサバイバルゲーマーに愛されてきたMP5Kをハイサイクル版でリニューアルした意欲作。220連射マガジンの標準装備も心強い。

全長: 345mm
重量: 1,490g(※バッテリー含まず)
動力源: ニッケル水素AKタイプミニバッテリー
装弾数: 220発
価格: 3万2184円



AK47HC / 電動ガン

●特殊部隊仕様のモダンAKのスタイルをハイサイクル電動ガンにフィーチャーした意欲作。M4から引き継いだトラクタブルストックが使いやすい。ハイサイクルはセミオートの切れも抜群だ。

全長: 680/760mm
重量: 2,650g(※バッテリー含まず)
動力源: ニッケル水素AKタイプミニバッテリー
装弾数: 250発
価格: 3万7584円



S&W M&P-9 / ガスガン

●スミスアンドウェッソン社が現在、世界中の軍や警察に売り込みを掛けている主力製品を高性能ガスブローバック化したヒット商品。操作性が良く、初心者でも使いやすいデザインだ。

全長: 194mm 重量: 620g(※空マガジン装着状態)
動力源: HFC134aガス 装弾数: 25+1発
価格: 1万8144円



デトニクス.45 コンバットマスター / ガスガン

●'70~'80年代に一世を風靡したM1911ガバメントのコンパクトカスタムが最新高性能のガスブローバックで蘇った。手の平に入る小型拳銃ながら、可変HOP-UPで高い命中精度を発揮。

全長: 178mm
重量: 634g(※空マガジン装着状態)
動力源: HFC134aガス 装弾数: 18+1発
価格: 1万5984円



グロックG18C / ガスガン

●いま世界でもっとも普及しているハンドガンといわれるのがオーストリアのグロックシリーズ。しかしこの18Cは法執行機関限定のセミ&フルオート切り替えモデル。ガスブローバックも迫力満点!

全長: 186mm 重量: 698g(※空マガジン装着状態)
動力源: HFC134aガス 装弾数: 25+1発 価格: 1万8144円



コルトパイソン.357マグナム 4インチ / ガスガン

●実際に回転するシリンダー内に「4発×6ホール=24発」を装填でき、しかも1発ずつ確実に撃ち出すメカニズムを搭載! 実銃の4倍という夢の多弾数を実現した革新的リボルバーの、記念すべき第1弾モデル。

全長: 241mm 重量: 573g
動力源: HFC134aガス 装弾数: 24発
価格: 1万4904円



S&W M66 2.5インチ / ガスガン

●東京マルイの24連射リボルバーシリーズは、多弾数に加え、HOP-UP搭載で遠距離射撃性能も命中精度も申し分ない、と評判。2.5インチの短銃身でもインドアならHITを取れる可能性、充分にアリ!

全長: 201mm
重量: 510g
動力源: HFC134aガス 装弾数: 24発
価格: 1万5984円



M870ブリーチャー / ガスガン

●ドアの鍵や蝶番部分を爆薬やハンマーで吹き飛ばして開けることを「ブリーチング」と呼び、時には短く切り詰めたショットガンを使う。サバイバルゲームに於いては機動性に優れた便利な武器だ。

全長: 515mm
重量: 2,200g(※空マガジン、ガスタンク含む)
動力源: HFC134aガス 装弾数: 30発
価格: 3万5424円



サバゲーって何？



サバイバルゲームは、おもちゃの鉄砲を使用して撃ちあう、いわば大人の戦争ごっこ。アメリカで流行していたペイントボールゲームがコンバットマガジン誌で紹介され、日本独自のエアガンゲームに進化した。そんなサバゲーの魅力に迫ってみよう。

サバゲーの魅力とは？

サバイバルゲームの面白さは、缶蹴りや陣取りゲームなど昔ながらの子供の遊びに通じるところがある。相手チームのフラッグを密かに狙って身を隠す緊張感、あるときは敵の目を盗んでフィールドを移動し、またあるときは大胆に攻撃する。この緩急は対戦型のスポーツにも似ていると言えるだろう。

射撃の上手さや敵の発見力など、個人技も重要だが、力押しだけでは勝てないのもサバイバルゲームの面白いところ。知力と体力を駆使してチームで巧みな戦略を練り、それを実行していくということもサバゲーの楽しさである。そして敵をヒットしたときの充実感、味方と力を合わせてフラッグをゲットしたときの達成感は何物にも代えがたい快感といえるだろう。

遊び方は次ページで紹介するが、「フィールド」と呼ばれる戦闘エリア内で敵味方のチームに分かれ、両陣にある敵の旗（フラッグ）を取り合うのがもっとも一般的。エアソフトガンという免許が不要な玩具銃を使用し、敵味方入り乱れての撃ち合いになる。エアソフトガンの弾は直径6mmの球形をしたプラスチック製。弾が当たったらそのプレイヤーは被弾（ヒット）した旨を自己申告し戦線離脱、セーフティゾーンと呼ばれるフィールドの外へ退場となる。運動量がそれなりに多く、スポーツ感覚でゲームに参加しているユーザーも少なくないだろう。



フィールドタイプ



大まかにはアウトドアフィールド（野外）とインドアフィールド（室内）の2種類に分類される。その土地の地形や建造物によってレイアウトは多種多様、行く先々で個性に富んだゲームを楽しめるぞ！フィールドとは別に、エアガンでの撃つて遊ぶことのできるシューティングレンジという施設も存在している。

Type A Outdoor



アウトドアフィールドにも色々なタイプがある。森林をそのまま活かしたフィールドや、その自然にバリケードや砦などの建造物を融合したフィールド。はたまた市街地のような迷路、小部屋まで作り込んでいる大規模フィールドも存在し、同じ野外ではあるが全く異なる様相を楽しめる。また、森林では迷彩服で擬態したスナイパーなどが多く、市街地フィールドでは淡い色の迷彩服もその効果を発揮する。

【参考フィールド】 ROCKFIELD 3 GUNS(左/宮城県)、Air Soft Park GARDEN(右/千葉県)、CQB FIELD BUDDY(右下/大阪府)



Type B Indoor



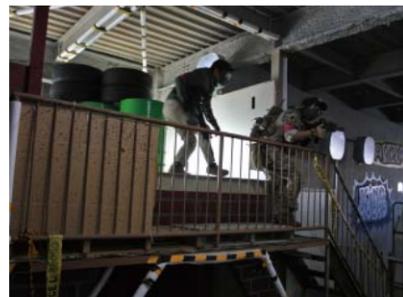
インドアフィールドは倉庫やビルを改装して造られたものが多い。狭い通路ではライフを取り回すことが難しく、ハンドガンやサブマシンガンが主力となる場面もあり得る。このような市街地スタイル=CQBでは、小部屋を一つ一つ制圧していく戦闘スタイルを熟知すると有利だ。天候に左右されないで年間を通じて人気があるが、人数定員はアウトドアよりも若干少ない場合がある。【参考フィールド(左から)】 九龍 戦闘市街区(神奈川県)、ACE☆SWAT INDOOR SHOOTING(岡山県)、JJ Battle Spot(千葉県)

サバイバルゲームへの参加方法

本誌巻末の「全国サバゲーフィールド最新ガイド」を参考に、最寄りのフィールドシューティングレンジを探してみよう。各地で開催されている『定例会』という自由参加のゲーム会があるので、まずはそこに参加してみるのがオススメだ。もちろん一人でも参加OK！ 興味のある友人がいれば誘ってても楽しいだろう。大人数なら『貸切利用』できる場合もあるので、詳しくはフィールドまで問い合わせを。



AirsoftAmusement ASTREA(エアソフトアミューズメント アストレア)



巨大インドアフィールドの1Fに、ほぼ実物大の電車を模した構造物を有する「ニューヨーク地下鉄フィールド」が圧巻！ 内部に入って戦う事も可能な車両には座席が再現され、ハリウッド映画でよくあるハラハラドキドキの銃撃戦を再現できる。他の場所もマンハッタンのビル群を思わせるバリケードのデザインや、「Subway」、「Market」等と英語で描かれたサインなど、世界観の丁寧な作り込みには驚くばかりだ。2Fには最長40mの距離を誇るシューティングレンジが設置され、レーン間の仕切りネットを取り外せば全国大会規模のマッチ開催も可能。さらに2Fには1Fフィールドの半分ほどの規模のミニフィールドもあり、こちらはハンドガン戦等に丁度良い大きさ。大型バスも余裕のアスファルト駐車場を完備しており、会社やサークルでの利用も大歓迎、との事。レンタルガンとゴーグルは40セット以上あり、初めてでも手ぶらで楽しめる。土曜の定例会は昼～夜という時間帯で開催、丸一日サバゲーができるぞ！

④群馬県藤岡市篠塚281-1
☎・FAX 0274-50-8688 ✉asaastrea@gmail.com
⑤ショップ・フィールドのフリー利用：平日12:00～21:00 土日祝日10:00～21:00 (フリー利用は21時までの来場で24時まで延長可能)
⑥木曜定休(祝日の場合営業) <http://www.asa-astrea.jp/>

アクセス 【車】上信越自動車道 藤岡ICより2.2km、練馬インターから1時間！ 【電車】八高線北藤岡から3.5km、群馬藤岡から2.5km

施設案内 ●自販機、更衣室、シャワールーム、トイレ洋式水洗あり。●BB弾、ガス、乾電池(単四、単三、LR44、CR2032)、ターゲットペーパー、カップ麺も販売あり。●50台駐車可能。●電子レンジ、給湯ポット、お弁当(500円)あり。近くにコンビニ、マクドナルドあり。

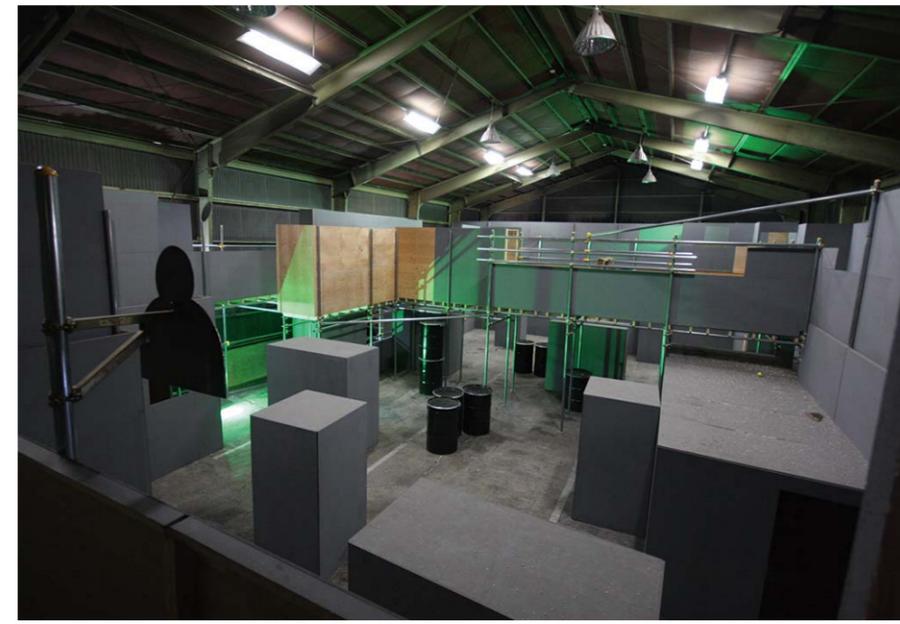
レンタル・販売品 ●レンタルガン 1日使い放題 2500円 1時間500円 フルフェイスゴーグル 1日500円 貸切用にホーン、ミニ拡声器、キッチンタイマー、カウンター、充電コーナー、マガジンウォーマーも完備。定例会・貸切において、高校生以下と女性のお客様はレンタル品(銃・ゴーグル)を無料サービス

定例会・イベント 定例会は毎週末(土日交互)の他、平日にも開催。完全予約制 定員40名 HPの予約フォームまたは要電話予約。料金4000円(高校生以下2500円)お弁当500円 ダッシュ・フルオート禁止。詳細はwebサイトを参照。

貸切について 時間枠：A枠 8:00～13:00 B枠 13:30～18:30 C枠 19:00～24:00 D枠 24:30～6:30 料金(1枠あたり) 1F AorB枠10名まで平日2万5000円(10人以降1人2500円) 休日3万円(10人以降1人3000円) C枠 10名まで平日3万円(10人以降1人3000円) 休日3万5000円(10人以降1人3500円) D枠 10名まで平日3万5000円(10人以降1人3500円) 休日4万円(10人以降1人4000円) 2F AorB枠 6名まで平日1万2000円(6人以降1人2000円) 休日1万5000円(6人以降1人2500円) C枠 6名まで平日1万5000円(6人以降1人2500円) 休日1万8000円(6人以降1人3000円) D枠 6名まで平日1万8000円(6人以降1人3000円) 休日2万1000円(6人以降1人3500円) 1日の間に2枠ご利用いただく、お一人様1000円引き



INDOOR SURVIVAL FIELD Z/X (インドア サバイバル フィールド ゼクス)



④〒335-0035 埼玉県戸田市笹目南町25-10
☎080-7841-3224 (10:00～22:00受付)
⑤年中無休、24時間営業
✉info@zx-survival.moo.jp <http://zx-survival.moo.jp/>

アクセス 【車】「戸田南IC」より1km以内
【電車】JR埼京線「戸田駅」「戸田公園駅」、もしくは都営三田線「西高島平」駅から徒歩あり。
施設案内 ●駐車場10～15台 ●男女兼用トイレ ●自動販売機

レンタル・販売品 【販売品】●ゴーグル1600円 ●ガス1300円 ●バイオBB弾0.2g(3700発)1500円 ●バイオBB弾0.25g(1500発)1000円 ●超精密BB弾0.2g(3700発)1000円 ●グローブ1500円～ ●軍手1500円 ●Z/XオリジナルTシャツ3000円 ●次世代M4CQB-R 4万円 ●M870 3万円 ●G3SAS 2万円 【レンタル】●ゴーグル500円 ●電動ガン(G3)2000円 ●ハンドガン(デザートイーグル、グロック、ベレッタ、ナイトウォーリア)2000円 ●デジタル柄戦服上下セット3,000円/各上下1000円

貸切について ●貸切(5～30人) 平日：4Hパック 2500円/1名、土日祝：4Hパック 3,000円/1名 ●フリー参加 平日：800円/1H/1名、土日祝：1,000円/1H/1名

OPENから約1年、都心からのアクセス抜群な埼玉県戸田市という恵まれた立地もあり、連日大人気のインドアフィールドが「Z/X(ゼクス)」だ。

天井の高い巨大倉庫を利用して造られたフィールド内部。1階部分のバリケードは移動させる事が可能なので、ゲーム内容に合わせてシチュエーションを変えられる。いっぽう、2階部分は周囲を巡るキャットウォークとフィールド中央を横切る「橋」からなり、1階で行われているゲームをここから観戦する事ができる。

この2階部分自体にも迷路のようなCQBゾーンやバリケードが設けられているので、ここだけを限定的に使ったゲームや、1階と2階、全体を使った大規模なゲームももちろん可能だ。

そして2015年から始まった企画として、フィールド全体を蛍光灯が照らす「通常照明モード」、あたかもナイトビジョン(暗視)ゴーグルで覗いた世界をイメージさせる「グリーン照明モード」でのゲームも幻想的で面白い。そして雰囲気サイコーに盛り上げてくれる本格的なBGM装置、年中無休&24時間営業というもたまらない魅力だろう。



Editor&Publisher

今井今朝春
Kesaharu Imai

Cover Design

井上健太郎(ベース)
Kentaro Inoue(Base)

Design

水野 拓(ベース)
Taku Mizuno(Base)

井上健太郎(ベース)
Kentaro Inoue(Base)

杉本利菜(WPPデザイン部)
Lina Sugimoto(WPP Design Section)

鈴木 学(WPPデザイン部)
Manabu Suzuki(WPP Design Section)

若山トシオ(フェイヴァリット・グラフィックス)
Toshio Wakayama(favorite graphics)

ワールドムック編集部

World Mook Editorial Dept.

浦山真由美
Mayumi Urayama

千葉 祐司
Yushi Chiba

Editor in Chief (COMBAT MAGAZINE)

服部夏生
Natsuo Hattori

Editor
梅木雅之
Masayuki Umeki

Contributed Editor

上矢 ゆい
Yui Kamiya

松浦 豪
Tsuyoshi Matsuura

河村喜代子
Kiyoko Kawamura

Illustrator

長谷川元太郎
Mototaro Hasegawa

Staff Photographers

熊谷義久
Yoshihisa Kumagai

油科康司
Yasuji Yushina

鶴田智昭
Tomoaki Tsuruda

青木健格
Takenori Aoki

宮坂政邦
Masakuni Miyasaka

Advertising Director

鈴木敏弥
Toshiya Suzuki

Advertising Staff
上田秀一
Shuichi Kanda

千葉 祐司
Yushi Chiba

福田将義
Masayoshi Fukuda

粕谷笑美子
Emiko Kasuya

片岡奈穂子
Nahoko Kataoka

Production Director

小川俊介
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager

笹川裕史
Hiroshi Sasagawa

Print

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

DTP
Base

Correspondents, Washington, D.C. Bureau

(Pictorial Press International)
Norman T.Hatch
Mikako Burks

NEXT 次号予告



●ミリ服 [アメリカのミリモノ超特集]

Made in USA

●キャラクターワッペン大特集

ミリタリー・インシグニア・オブ・キャラクターズ

ロボット兵士たちの未来

●ミリタリークローズング改造

ヴィンテージ・ミリ服の楽しみ

アメリカ発 最強サバイバル・ゲーマー

●プレイしたい遊び場をチェック

全国サバゲーフィールド&シューティングレンジガイド

※その他、強力特集がいっぱい

この竹藪の中には3人のゲーマーが隠れています。分かるかな？
ギリースーツを着るなら真・長老の杜 (98ページ) へ！

MILSUMA No. 6 JULY 2015

2015年6月26日発売予定

WORLD M O O K

ワールド・ムック1073(通巻1073号)

平成27年5月30日発行

MILSUMA [ミリスマ]

編集・発行人●今井今朝春

発行所●株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

TEL:03(5385)8111 [編集部]

03(5385)5701 [販売部]

03(5385)5658 [広告営業部]

FAX:03(5385)5614 [編集部]

03(5385)5703 [販売部]

03(5385)5614 [広告営業部]

印刷所●大日本印刷株式会社

© WORLD PHOTO PRESS 2015

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がございましたら販売部までにお送りください。
送料弊社負担にてお取り換えいたします。本誌掲載記事の無断転載、複製、転写を禁じます。

弊社出版物のお申し込みはインターネットをご利用いただけます。http://www.monomagazine.com

●本誌に掲載されている店舗と商品情報は平成27年4月15日現在の調べによるものです。本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>